

事例 8：大町町（佐賀県）
令和 3 年 8 月の大雨（2021 年 8 月の大雨）
発災日：2021 年 8 月 14 日

特徴

- 佐賀県大町町は、2019 年 8 月と 2021 年 8 月の 2 度にわたって水害を経験している。
- 2019 年 8 月の水害を契機に、交流拠点「Free Space Peri.」（以下「ペリドット」という。）を整備し、地域おこし協力隊員を防災担当職員として配置するなど、災害時の支援拠点となるように、平時からの体制を構築している。
- 2021 年 8 月の大雨の際は、ペリドットを拠点に早期の個別訪問、相談支援を含めた対応が行われた。
- 被災者支援に、民間 NPO が数多く入っている点も特徴である。



＜浸水の様子（大町町中島地区）＞

被災状況等

町の人口	6,306 人（2,712 世帯）（2021 年 1 月 1 日時点）
被災状況	・ 住家被害：中規模半壊 78 棟、半壊 126 棟、準半壊 34 棟、一部損壊 102 棟 （床上浸水 248 棟、床下浸水 171 棟）
災害の概要	・ 2021 年 8 月の大雨では、停滞した前線の影響で、8 月 11 日から 18 日までの 8 日間の総雨量が 1,035mm と、記録的な大雨になった（町役場設置雨量計）。 ・ 同年 8 月 14 日は、線状降水帯による猛烈な雨や非常に激しい雨が降り続き、同日午前 3 時 25 分に緊急安全確保を発令し、午前 3 時 30 分に大雨特別警報が発表された。また、町役場に設置する雨量計においては、午前 2 時に、1 時間当たり 70mm を記録し、11 日からの総雨量は約 600mm に達した。 ・ この大雨により、大町町内では、各地の浸水、ため池付近の山林で地すべりの兆候がみられるなど、甚大な被害が生じた。

災害ケースマネジメントに取り組んだ経緯・背景、取組概要

<経緯・背景>

- 大町町では、2019 年 8 月にも水害を経験しており、この水害では、浸水被害に加え、鐵工所の油流出事故の関係で、全壊や大規模半壊となった住家が多く、賃貸型応急住宅への入居者もいた。その際、個別の被災者の状況を把握していくために、町の子育て健康課を中心に、被災者の個々の状況を関係者間で共有する被災者支援会議を月 1 回の頻度で開催していた。被災者支援会議は、町の保健福祉課や総務課交通防災係に加え、民間団体も参画した多様な被災者支援の主体による会議であり、継続的に開催されていた。
- 2019 年 8 月の水害を契機に、大町町では、被災者支援会議を通じた見守り支援が定着していたことから、2021 年 8 月の大雨においても、罹災証明書の発行状況や、被災者支援に係る諸制度において対応に漏れがないか、また、困りごとを抱えているが、声を上げることができていない被災者はいないかといった観点から、情報把握を早期に進めることができた。
- 2021 年 8 月の大雨における大町町の被害の特徴としては、浸水被害（床上浸水 248 棟、床下浸水 171 棟）が多かったものの、大規模半壊以上となる世帯はなく、住家の応急修理制度や被災者生活再建支援制度を活用して生活再建する世帯や、住家の応急修理制度の対象にもならない世帯が多かった。また、公費解体が適用となる事例もなかった。

<取組概要>

- 大町町の被災者支援の体制の特徴としては、町の CSO 連携室において、地域おこし協力隊員が行政職員としてその窓口を担当した。2021 年 8 月の大雨では、町内 3 か所に支援交流拠点が設置され、CSO 連携室を中心に各支援交流拠点単位で大町町社会福祉協議会（以下「町社協」という。）、NPO、自治会等の協力も得ながら、被災世帯の状況把握に努めた。

※支援交流拠点：

被災者が困りごとを相談し、当該被災者と、公的支援制度や民間ボランティア等の支援者をつなぐ拠点。

2021 年 8 月の大雨では、ペリドット、中島区公民分館、下潟区公民分館の 3 か所を支援交流拠点として活用。

- 発災直後（2021 年 8 月）は、保健師による健康調査、災害ボランティアセンター（以下「災害 VC」という。）による家屋保全作業等のニーズ調査や NPO による個別のニーズ把握が並行して進んでいたが、罹災証明書の発行段階では、アンケートにより、改めて被災者の支援ニーズに関する調査を実施し、その結果を基に、町が被災者台帳を作成し、その後の個別訪問につなげていった。
- 個別訪問では、住まいの再建を主目的として、町の福祉課等と連携しながら、CSO 連携室が、住家の応急修理制度の活用や大町町独自の「令和 3 年大雨被災者暮らし再建補助金」の活用が可能かどうかといった点を中心に、相談支援を行った。

災害ケースマネジメントを実施したことによる効果

- 個別訪問では、町の CSO 連携室を中心に、町をエリアごとに分け、民間の支援団体と協力・情報共有等を行いながら、被災した世帯を訪問し、被災者支援に係る制度等の情報提供を行った。
- 2021 年 8 月の大雨では、個別訪問をする中で、罹災証明書を発行することが可能にも関わらず、発行していない世帯がいくつかあることを把握することができた。
- 床下浸水などの被害を受けた方の中には、活用できる支援制度がないと諦めている方などもいたが、個別訪問を行うことにより、被災者支援に関する制度等の情報提供を行った結果、支援を必要としている方が、適切な支援を受けられるよう手続き実施することができたため、これらの支援制度の活用につながった。

災害ケースマネジメントを実施してみたの反省点・改善点

- 町の CSO 連携室、町社協を主体とし、NPO の協力を得て、CSO 連携会議を毎月開催している。大町町は、2019 年に続き、2021 年にも被災したため、これらの構成員から会議の参加について理解も得られやすい状況にある。このため、現在は、CSO 連携会議を毎月継続開催できているが、参加している NPO にいつまで支援を継続してもらえるか分からないため、国や県からの財政支援により、NPO への事業委託費や協力金の支払いができる仕組みがあることが望ましい。

※CSO 連携会議：

町の CSO 連携室が中心となり、NPO 法人佐賀災害支援プラットフォーム（以下「SPF」という。）に加盟・登録されている NPO 等、町社協、地域団体が参加する町域の連携会議。

※NPO 法人佐賀災害支援プラットフォーム（SPF）：

被災地支援のためにアクションを起こしたい佐賀県民又は同県に所縁のある者が、それぞれ活動するに当たって、情報交換や協力するためのプラットフォーム。

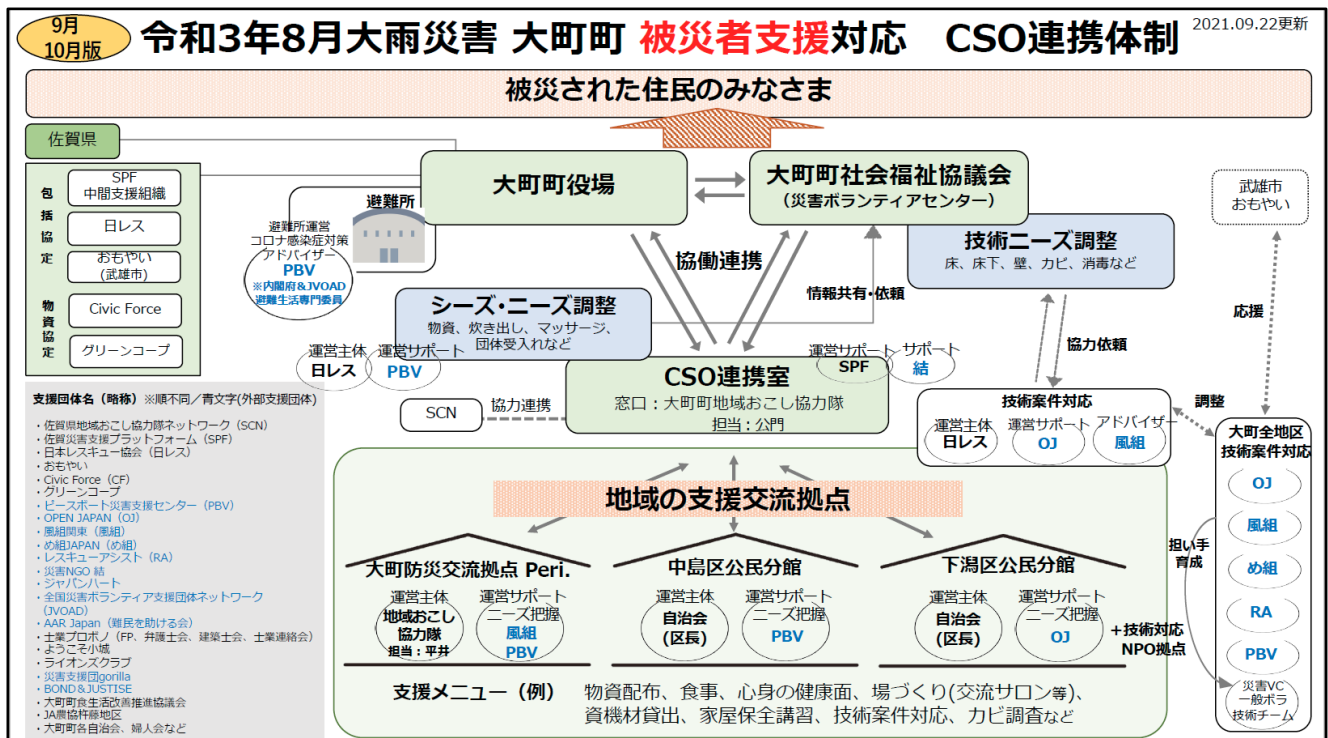
- 被災者支援の実施に当たっては、福祉分野と防災分野の両方の観点が必要と考えられる。発災後しばらくの間は、防災分野の観点からの対応を行うが、それは一時的なものであり、時間が経過すると、生活が苦しい方や体が不自由な方が残っていく。このような場面においては、福祉分野の観点から、被災者の対応をしていくが必要になる。この際、平時から行われている福祉支援の枠組みを活用できると、より円滑な対応が可能となる。
- NPO が自治体の活動に関与することに躊躇する自治体もあると聞くことがあるが、大町町では多くの NPO を受け入れた。このように大町町で受援力が高い背景には、2019 年の災害経験を踏まえて、2021 年の対応を行ったことがあると考えられる。

今後の展望

- ペリドットについては、SPF の協力を得ながら、2022 年度についても運営を継続し、引き続き、被災者の状況把握や相談支援に努めるとともに、地域の交流拠点としてコミュニティ形成を図っていく。
- 物資拠点等の機能を有する防災拠点としても活用できるよう、更なるペリドットの整備を進める予定。

各論

(1) 災害ケースマネジメントの実施体制



(出典：大町町 CSO 連携室資料)

- 大町町では、CSO 連携室を中心に、町役場の関係課室、町社協が連携して、「ペリドット」、「中島区公民分館」「下湯区公民分館」の3か所を支援交流拠点として活用。
- 「ピースボート災害支援センター (PBV)」、「OPEN JAPAN (OJ)」、「風組関東」等の県外 NPO、SPF や地元自治会などと協力して運営、支援にあたる。

(2) 災害ケースマネジメントの支援対象者・把握方法、支援の実施方法

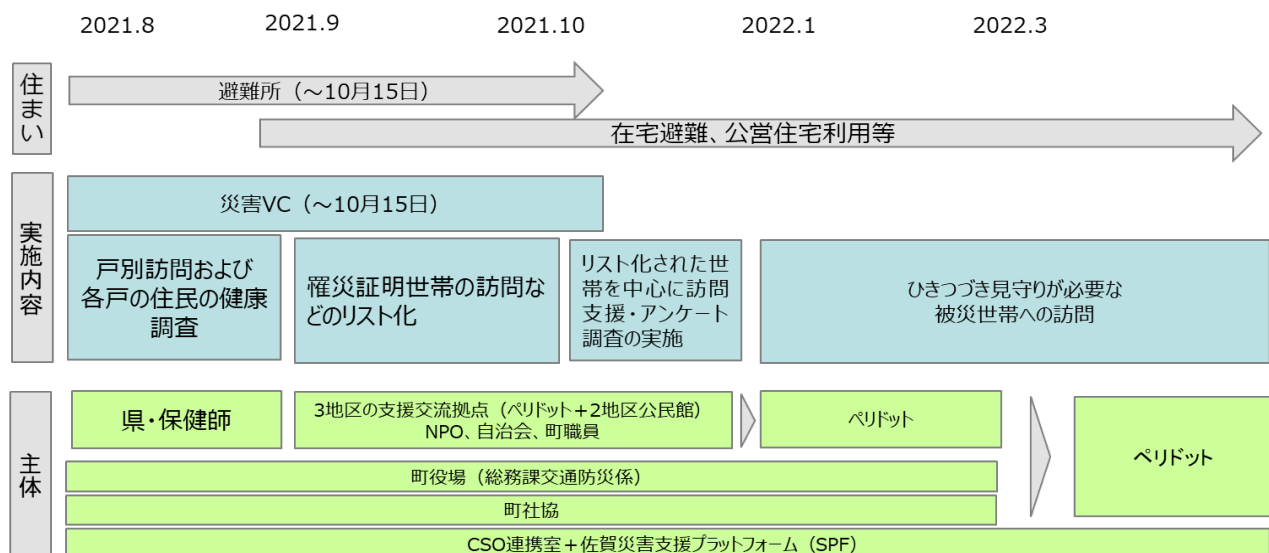
<支援対象者・把握方法>

- 発災当初 (2021 年 8 月) 段階では、保健師・医療関係者、災害 VC、NPO の3つの主体が、それぞれ個別に被災者の支援ニーズの把握を行っていたため、これらの情報を CSO 連携会議で一元的に集約して整理。
- その後、第一弾の「ヒアリングシート」を作成し、支援交流拠点をベースに個別訪問を実施。個別訪問の初期段階において、まずは、支援制度の周知を優先した。特に、災害廃棄物処理関係など、活用できる支援制度に期限があるものについては、情報の周知が重要であるため、なるべく早く個別訪問を行うよう心掛けた。この訪問で得た内容を項目として盛り込み、被災者台帳 (約 350 世帯分) を作成した。(参考：大町町の世帯数 2,712 世帯 (2021 年 1 月 1 日時点))

＜支援の実施方法＞

- 2021 年 10 月初旬に、CSO 連携会議において、被災者台帳（約 350 世帯）の記載事項をベースに、第 1 弾のヒアリングシートよりも、さらに追加で詳細な情報を盛り込んだシート（以下「情報集約シート」という。）を作成。
- 同月、在宅避難者を漏れなく把握するために、応急修理制度申請済みの世帯、災害 VC で情報把握ができていない世帯、定期的に支援交流拠点に物資を取りにきている世帯は対象から除外し、情報把握ができていない約 100 世帯を対象を絞り込み、改めて訪問調査を実施。10 日程度で訪問を実施した。
- 被災者台帳に記載のある約 350 世帯のうち、上記約 100 世帯を除く、残る 250 世帯については、災害 VC と町社協が 50 世帯程度を訪問、残る 200 世帯は行政窓口にて申請等手続きに訪れた際に状況を確認することとした。
- 情報集約シートは、世帯ごとの状況を細かく記載できるようにし、本人同意の取得も、シートに情報を記入する際に行っている。
- このような過程を経て把握することができた情報を基に、NPO や町社協が検討した結果、支援が必要な世帯は約 50 世帯となり、当該世帯を対象として、その後も、定期的な個別訪問を行った。

（３）災害フェーズ・時系列ごとの取組内容



※上記の「実施内容」の支援の実施に当たって、活用した予算制度等

- ・ 災害救助法
- ・ 地域おこし協力隊
- ・ さが未来アシスト事業費補助金

<避難生活段階>

- 発災直後（2021 年 8 月）は、保健師による健康調査、災害 VC による家屋保全作業等のニーズ調査や NPO による個別のニーズ把握が並行して進んでいたが、罹災証明書の発行段階では、アンケートにより、改めて被災者の支援ニーズに関する調査を実施し、その結果を基に、町が被災者台帳を作成し、その後の個別訪問につなげていった。
- 個別訪問では、住まいの再建を主目的として、町の福祉課等と連携しながら、CSO 連携室が、住家の応急修理制度の活用や大町町独自の「令和 3 年大雨被災者暮らし再建補助金」の活用が可能かどうかといった点を中心に、相談支援を行った。

<地域の支援交流拠点の立上げとそれ以降の取組>

- 支援交流拠点を設置した地区は、下潟地区、中島地区、恵比須・大黒町地区の 3 つであり、それぞれの取組は以下のとおり。

下潟地区	区公民分館を拠点に、OPEN JAPAN（NPO）と地元自治会が中心となって運営を行った。
中島地区	区公民分館を拠点に、ピースボート災害支援センター（NPO）と地元自治会が中心となって運営を行った。
恵比須・大黒町地区	地域おこし協力隊の拠点であるペリドットを拠点に、地域おこし協力隊員、ピースボート災害支援センターや風組関東（NPO）が中心に運営をサポートした。

- NPO 等の支援団体と町の間で委託契約はなかったが、町から当該団体へ支援を依頼した。その際、活動拠点として支援交流拠点を提供した。
- 支援交流拠点は、災害対応に関する困り事は、何でも相談を受付けていた。当該施設の設置場所は、町が提供を行い、支援物資を置いたり、相談できる人がいたり、食事の提供を行ったりしていた。それだけでなく、在宅避難者が相談に行ける場所としても機能していた。
- 最終的に、3 つあった支援交流拠点は、恵比須・大黒町地区のペリドットに集約した。

<ペリドットの運営体制>

- ペリドットの人員は 2 名（地域おこし協力隊：2 名）。2 名の役割分担は、防災担当 1 名、子育て支援担当 1 名である。子育て支援担当は、子育て支援に関わることで協力する体制をとっている。
- 佐賀県では、CSO（Civil Society Organization：市民社会組織）として、区長会や婦人会の地域団体が社会のことに取り組む試みがある。
- 基本的な活動主体は、NPO が中心となるが、2019 年の教訓を活かして、地域にあるサークルも巻き込んだ支援ができたので、今後の取り組みにも活かしていきたいと考えている。

<個別訪問を行うスタッフに対する研修>

- 個別訪問に関わる関係者を対象として、町の主催により、訪問事前研修会を 2021 年 10 月に実施。災害支援団体の「風組関東」を講師として迎え、個別訪問を実施する趣旨や訪問時の注意事項等を説明。

- スタッフが、公的支援制度や民間団体の支援内容の説明を受けることにより、行政職員、社協職員、NPO 職員の間の情報の差をなくし、関係者が皆同様の情報・知識を得ることができたため、必要な支援を適切に被災者につなぐことができるようになった。

（４）災害ケースマネジメントの実施に当たっての関係者での情報共有方法

＜避難所運営会議＞

- 設置された 5 つの避難所ごとに、避難者の支援ニーズに基づいた個別ケースの情報共有を図るための避難所運営会議を定期的実施。

＜CSO 連携会議（町域会議）・被災者支援会議＞

- 2021 年 9 月以降、情報共有のための CSO 連携会議が週 1 回開催され、行政から各避難所や行政対応の内容、社協は災害 VC の対応状況、NPO からは地域の支援拠点での活動に関する情報を集約した。
- 同年 11 月時点では避難所が閉鎖されたため、避難所運営会議と CSO 連携会議を被災者支援会議に一元的に統合して、引き続き週 1 回開催した。
- 同年 12 月以降、CSO 連携室を中心に町社協、NPO 等と連携しながら、支援が必要な被災者のための個別のケースカンファレンスを被災者支援会議において実施（月 2 回開催）している。

＜葉隠会議（県域会議）＞

- SPF 主催の情報共有会議である「葉隠会議」については、大町町内で支援活動を行っていた NPO は参加していたものの、大町町は参加しなかった。

（５）被災者台帳等の活用・共有の状況

＜被災者台帳の作成＞

- 2021 年 8 月の大雨では、罹災証明書、支援対象者を個別訪問している各部局や災害 VC が実施した被災者の支援ニーズの調査結果などを集約し、A4 サイズ 2 枚程度にまとめたアンケート票を作成。この内容を台帳項目として、被災者台帳を作成した。
- なお、2019 年 8 月の大雨では、発災後に、被災者確認票という名称で、エクセルを利用し、被災者台帳を作成した。当時、被災者台帳は、床上浸水世帯への支援について、支援の漏れや重複を防ぐことを目的として作成していた。また、被災者台帳の作成時期はかなり遅くなった。被災者台帳の管理方法については、一つのエクセルファイルでの管理としたため更新者が限られ、適時的確な反映を円滑に行うことができないという課題が生じた。

＜個人情報の関係者間での共有、それに伴う本人同意の取得＞

- 基本的には紙で情報を集めて、それを最終的にエクセルに入力してとりまとめ、ケースカンファレンスで共有し、その都度担当者が情報を更新している。
- 各支援交流拠点で支援にあたる NPO には、必要な情報の一つということで情報を共有した。各 NPO には個人情報保護について誓約書を書いてもらった。

- 現在は、被災者台帳とは切り離した、見守り支援リストをエクセルで作成しており、町のCSO連携室（地域おこし協力隊）が情報の管理を担当している。

（６）個別ケースの事例

特徴的な支援ケース① 60代男性（独居）

- 元々は生活保護の受給を検討していたが、申請が受理されず国民年金で生活をしていた。経済的余裕がない中、被災により壊れた住家の修繕を業者に依頼できず、一人で作業可能な範囲で修繕を進めていた。
- 住家は床上浸水被害であったが、被害認定が一部損壊だったこともあり、応急修理制度や被災者生活再建支援金の対象にもならず、制度上の支援がほとんどない中で、住まいの再建をせざるを得ない状況であった。
- 個別訪問を行った結果、住家の修繕に必要となる材料費が高騰している影響により、これが家計を圧迫し、食料の確保が難しくなっていることが明らかとなった。
- このため、グリーンコープ生活共同組合による食料品の支援、め組 JAPAN（NPO 法人 MAKE HAPPY）による建築材料の提供及び必要な電動工具の貸し出し支援を得ながら、定期的に個別訪問を実施し、状況把握に努めた。
- 住家の修繕も完了し、国民年金での生活も落ち着いてきたが、現在も、引き続き、見守り支援として、定期的な個別訪問を行っている。

特徴的な支援ケース② 60代夫婦

- 住家の応急修理の申請は行われていたが、住まいの状況等の必要な情報がなかったため個別訪問を行なった。
- その際、住家の中を確認すると、発災より3か月経っていたが、家財と畳が撤去されたのみで、住家の修繕がされている様子がなかった。
- 夫婦に聞き取りを実施した結果、資金面の都合により、床のフローリングの交換は行わず、和室の床の板材の張り替えを検討していたが、家屋の構造上、床板が簡単には交換出来ない仕様であったため、町独自の令和3年大雨被災者暮らし再建補助金の活用ができないと勘違いしていた。
- 個別訪問を行った相談員から、令和3年大雨被災者暮らし再建補助金の説明等を行い、改めて町の担当課に相談することを勧めた。
- 後日、町役場に相談した結果、住まいの補強や消毒等の制度が活用できたため、滞っていた住まいの生活環境の改善が図られ、当事者の経済的負担の軽減にもつながった。

(7) 被災者台帳やアセスメントシート等の活用したツール

<アンケート調査票（2021年10月訪問調査時に活用）>

- このアンケート調査票をもとに、被災者台帳の情報を整備するとともに、各支援拠点での情報共有に活用した。

今後の生活再建に向けたアンケート

2021.09.08 大町町

令和3年8月大雨災害による被害に遭われた皆様にご心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。
今後のより良い生活再建に繋げていくため、ご家族や家屋の状況について教えてください。
家の片付けやお仕事などでお疲れのところ、ご面倒をおかけしますがアンケートへのご記入をお願いいたします。

記入日	2021年 月 日 ()	記入者名	
-----	---------------	------	--

【1】世帯の情報

地区名	地区 班	ペットの有無	☐ いない ☐ いる（種類： ）
-----	------	--------	---

【家族構成】

氏名	年齢	性別	続柄 (世帯主から見た続柄)	職業	現在の居場所	当てはまるものにチェック
(ふりがな：)	歳	☐ 男性 ☐ 女性 ☐ その他	世帯主		☐ 自宅 ☐ 親戚宅 ☐ 車中泊 ☐ 避難所（場所： ） ☐ その他（ ）	☐ 高齢者世帯 ☐ 乳児 ☐ 幼児 ☐ 小学生 ☐ 中学生 ☐ 高校生 ☐ 入院中 ☐ 施設入所中 ☐ 障害者 ☐ 要介護者 ☐ その他（ ）
(ふりがな：)	歳	☐ 男性 ☐ 女性 ☐ その他			☐ 自宅 ☐ 親戚宅 ☐ 車中泊 ☐ 避難所（場所： ） ☐ その他（ ）	☐ 高齢者世帯 ☐ 乳児 ☐ 幼児 ☐ 小学生 ☐ 中学生 ☐ 高校生 ☐ 入院中 ☐ 施設入所中 ☐ 障害者 ☐ 要介護者 ☐ その他（ ）
(ふりがな：)	歳	☐ 男性 ☐ 女性 ☐ その他			☐ 自宅 ☐ 親戚宅 ☐ 車中泊 ☐ 避難所（場所： ） ☐ その他（ ）	☐ 高齢者世帯 ☐ 乳児 ☐ 幼児 ☐ 小学生 ☐ 中学生 ☐ 高校生 ☐ 入院中 ☐ 施設入所中 ☐ 障害者 ☐ 要介護者 ☐ その他（ ）
(ふりがな：)	歳	☐ 男性 ☐ 女性 ☐ その他			☐ 自宅 ☐ 親戚宅 ☐ 車中泊 ☐ 避難所（場所： ） ☐ その他（ ）	☐ 高齢者世帯 ☐ 乳児 ☐ 幼児 ☐ 小学生 ☐ 中学生 ☐ 高校生 ☐ 入院中 ☐ 施設入所中 ☐ 障害者 ☐ 要介護者 ☐ その他（ ）
(ふりがな：)	歳	☐ 男性 ☐ 女性 ☐ その他			☐ 自宅 ☐ 親戚宅 ☐ 車中泊 ☐ 避難所（場所： ） ☐ その他（ ）	☐ 高齢者世帯 ☐ 乳児 ☐ 幼児 ☐ 小学生 ☐ 中学生 ☐ 高校生 ☐ 入院中 ☐ 施設入所中 ☐ 障害者 ☐ 要介護者 ☐ その他（ ）
(ふりがな：)	歳	☐ 男性 ☐ 女性 ☐ その他			☐ 自宅 ☐ 親戚宅 ☐ 車中泊 ☐ 避難所（場所： ） ☐ その他（ ）	☐ 高齢者世帯 ☐ 乳児 ☐ 幼児 ☐ 小学生 ☐ 中学生 ☐ 高校生 ☐ 入院中 ☐ 施設入所中 ☐ 障害者 ☐ 要介護者 ☐ その他（ ）

【2】被害の状況

被災状況 ※複数選択可	☐ 床上浸水（浸水深：約 cm） ☐ カビが生えている ☐ 悪臭がする ☐ よく分からない ☐ その他（ ）
2年前の被害状況 ※複数選択可	☐ 2年前も今年もほぼ同じ ☐ 2年前は床上浸水だった ☐ 2年前は床上浸水だった（浸水深：約 cm） ☐ 2年前は被害なし
被災後の片付け	☐ 自分や家族、知人等で片付け・清掃を行い、完了した ☐ 災害ボランティアセンターへ依頼した（依頼内容： ） →現状： ☐ 活動が完了した ☐ 継続中 ☐ 追加で頼みたい ☐ まだ来ていない ☐ 災害ボランティアセンターへ依頼していない →依頼していない理由： ☐ 頼み方が分からない ☐ 連絡手段がない ☐ 何を頼めるのか分からない ☐ 災害ボランティアセンターを知らない ☐ ボランティアに入ってほしくない ☐ その他（ ）
ライフライン等の 復旧状況 ※複数選択可	☐ すべて復旧している ☐ 復旧がまだのものがある → ☐ 電気 ☐ ガス ☐ 水道 ☐ 電話 ☐ インターネット ☐ キッチン ☐ お風呂 ☐ 給湯機 ☐ トイレ ☐ 洗濯機 ☐ 冷蔵庫 ☐ 電子レンジ ☐ エアコン ☐ その他（ ）

【3】今後の生活再建について

今後の住まい予定	☐ 自宅（ 1 階 ・ 2 階以上 ） ☐ 公営住宅 ☐ みなし仮設 ☐ 親戚宅 ☐ その他（ ）
自宅の再建予定	☐ 家財の搬出と清掃のみで修繕はしない ☐ 修繕を検討 ☐ 解体を検討 ☐ 別の場所に移り住む（検討場所： ） ☐ その他（ ）

【4】現在の生活環境と健康面について

既往歴・治療中	☐ 特になし ☐ 持病がある（誰が： ） →病名： ・高血圧 ☐ なし ☐ あり（誰が： ） ・糖尿病 ☐ なし ☐ あり（誰が： ）
受診の状況	☐ 受診する必要がない ☐ 問題なく受診できている（誰が： ） →病院名： ☐ 受診できていない／困難がある（誰が： ） →理由： ☐ 病院がやっていない ☐ 移動手段がない ☐ 行く時間がない ☐ 行く気が起きない ☐ その他（ ）
内服の状況	☐ 薬を服用していない ☐ 問題なく服用できている（誰が： ） ☐ 服用できていない／困難がある（誰が： ） →理由： ☐ 受診できていない ☐ 薬局がやっていない ☐ 移動手段がない ☐ 行く時間がない ☐ 行く気が起きない ☐ その他（ ）

災害後の健康状態	☐ 変化なし ☐ 疲労がたまっている ☐ 日常生活に支障が生じている ☐ その他（ ）		
精神面	☐ 変化なし ☐ 気持ちが落ち込む ☐ 不安感が強い ☐ 気分が高揚している ☐ その他（ ）		
睡眠	☐ 変化なし ☐ 眠れない ☐ 何度も目が覚める ☐ 常に眠い ☐ その他（ ）		
食欲	☐ 変化なし ☐ 増えた ☐ 減った	食事量	☐ 変化なし ☐ 増えた ☐ 減った
食事内容	☐ 変化なし ☐ 変化した ▶現在の内容 ☐ 自炊している ☐ インスタント食品が中心 ☐ スーパー等のお惣菜を購入している ☐ 外食が多い ☐ その他（ ）		
調理・食事の環境	☐ 問題ない ☐ カセットコンロを使用している ☐ 食事を準備できる環境がない ☐ 食事を準備する時間がない ☐ 食事を準備する体力がない ☐ やる気が起きない ☐ その他（ ）		
車・移動手段	☐ 自家用車 ☐ 親戚等の送迎 ☐ 車両は元々保持していない ☐ その他主な移動手段（ ）		
今後の出費	☐ 問題ない ☐ 保険や制度を活用する予定 ☐ どうしたらいいか分からない	▶どんな出費があるか ☐ 家屋の修繕 ☐ 車の購入 ☐ ローンが残っている ☐ 家具・家電・日用品等の購入 ☐ 学用品の購入 ☐ その他（ ）	
保険加入状況	☐ 加入していない ☐ 地震・水害保険に加入している ☐ 地震保険のみ加入している ☐ 水害保険のみ加入している		

【5】その他

●今後の生活の再建に向けて、お困りごとや不安などがあればご自由にお書きください。

アンケートは以上です。ご協力いただきありがとうございました。
ご回答いただいたご意見・ご質問については、必要に応じて詳細の確認のためご連絡または、お問い合わせいただく場合がございます。
よりよい生活再建に繋げていくため、連絡先を教えてください。

氏名：

連絡先（携帯または自宅）： (ご都合の悪い時間帯：)

(8) 関連する写真



被災時の大町町全景



NPO、行政職員による個別訪問



浸水の様子（大町町中島地区）



CSO 連携会議（初期）



中島区公民分館での食事提供



災害ゴミの搬出風景



下潟区公民分館での食事提供



ペリドットでの住民同士の交流